

令和5年12月

## 第9回 湯来地域における小中一貫教育校設置検討会議 発言要旨

## 【議事：湯来地域に設置する小中一貫教育校の設置場所について】

## ○ 構成員

スクールバスを導入する場合の運行費用について、保護者負担はあるのか教えてほしい。

## ※ 教育委員会教育企画課

仮に、スクールバスを導入する場合には、運行費用に係る保護者負担はない。

## ○ 構成員

来年度、湯来東小学校区への移住希望者が3世帯ある。仮に、小中一貫教育校が湯来南運動広場に設置された場合には、上水内地区、水内地区の子どもたちや保護者のために、スクールバスを登下校1便だけにするのではなく、できるだけ通学負担が少なくなるような仕組みを考えてほしい。

また、湯来東小学校では、地域の方の協力も得ながら、毎年もち米づくりや鮎の放流などに取り組んでいるが、仮に、湯来南運動広場に設置された場合であっても、そうした地域資源を生かした取組や行事が残るようにお願いしたい。

## ● 座長

今の意見について、市から説明できることはあるだろうか。

## ※ 教育委員会教育企画課

前回会議でも説明させていただいたが、設置場所がどちらになったとしても、通学距離が長くなる児童生徒は必ず生じることから、現行の路線バスに頼らない通学手段の導入を前提としながら、児童生徒の通学に伴う負担の軽減について、しっかりと検討していく。

また、地域資源を生かした取組や行事について、どちらの候補地に設置することになっても、そうした取組が廃れることのないよう、しっかりとカリキュラムを考えていく。

## ● 座長

前回会議では、教育委員会から、例えば水内川の水質調査を行う場合のバス借り上げ費用など、地域資源を生かした取組を行う際の移動費についてもしっかりと確保できるよう取り組んでいきたいと言ってもらっている。設置場所の決定後は、授業に盛り込んでほしい内容を含め、我々から積極的に要望していく必要があると考えている。

## ○ 構成員

広島市において、スクールバスを運行している事例があれば教えてほしい。

## ※ 教育委員会教育企画課

それぞれ形態は異なるが、既存の公共交通機関以外によって通学している事例はある。まず、

安佐北区の白木中学校の生徒（志屋地区在住）が、スクールバス（少人数のため車種はタクシー）で通学している。また、安佐南区の伴小学校区にある若葉台団地在住の児童について、人数が急増して既存の路線バスでは通学が難しいことから、PTAが貸切バスを契約し、その運行費用を市が補助しているという事例がある。

○ 構成員

登下校の時間は学年や行事により一定ではないため、仮にスクールバスを運行する場合には、カリキュラムに応じてきめ細かく対応してほしいと考えているが、広島市の対応状況を教えてほしい。

※ 教育委員会教育企画課

専門の部署ではないため全ては把握していないが、伴小学校の事例で言うと、登下校で複数便のバスが運行していると聞いている。仮にスクールバスを運行する場合には、カリキュラムに応じて、どのくらいの便数を運行するかについてもしっかりと検討する必要があると考えている。

○ 構成員

湯来東小学校では、共働き家庭の子どもだけでなく、友だちと集まって遊びたいという子どもについても、放課後プレイスクールにお世話になっている。設置される小中一貫教育校にも、そのような放課後の子どもの居場所づくりをお願いしたいと考えている。一方で、統合によって、学校が遠くなる地域が出てくる中で、長期休暇中も共働き世帯はそうした施設を利用する必要がある。そのような場合も、子どもが学校まで通うためのスクールバスのような交通手段は確保してもらえるのか。

※ 教育委員会教育企画課

共働き世帯が増加している中で、長期休暇中において、学校から遠い地域から送迎したり、低学年の子どもに路線バスで学校まで通わせたりすることについて負担が大きいことは理解できるため、確約はできないが、長期休暇中の交通手段の確保についても検討していきたい。

○ 構成員

先ほど、水内地区への移住希望者が増えているという発言があったが、実際に自分が移住についての相談を受ける件数も増えている。小中一貫教育校がどちらの候補地に設置されるとしても、通学手段の確保と併せて、移住者の受け皿となるような公営住宅を整備することが重要になると考えている。

個人的な思いとしては、仮に湯来南運動広場に設置されることになったとしても、水内地区に公営住宅を整備してもらいたいと考えている。学校がなくなった場合でも地域を活性化していけるよう、移住希望者のニーズを満たせるような、ソフト・ハード両面の取組の検討を強くお願いしたい。

○ 構成員

湯来西小学校としては、前回会議と同様、小中一貫教育校がどちらの候補地に設置されるとしても受け入れるという意見である。設置場所について方向性が決まった状態で、来年3月の閉校を迎えたいと強く思っている。

前回会議でもお伝えしたが、会議の冒頭に確認している「4つの視点」に加え、来年3月の

閉校が決定している湯来西小学校のことを頭の隅に置いていただき、結論を先延ばしにすることがないようにしてほしい。

仮に、砂谷地区に設置されたとしても、和田地区が湯来の中心であることに変わりはないため、このサンピアゆきを中心としたエリアの活性化に向けて、ハード・ソフト両面で広島市からのバックアップをお願いしたい。学校の設置場所が決まった後には、そうした内容を協議する場を作っていただきながら、次のステップに進んでいきたい。

● 座長

他に意見はあるだろうか。あれば発言をお願いしたい。

【発言等なし】

● 座長

意見がないようであれば、前回会議での意見や、今回会議に「参考資料」として提出していただいている、皆さんが各団体において集約した意見、あるいは、本日も配付している市が候補地について整理した資料、これらを踏まえ、現実的に考えると、小中一貫教育校の設置場所としては湯来南運動広場・湯来体育館のところがよいのではないかという意見が多いように見受けられる。構成員の皆さんとして、この候補地でよいということであれば、湯来南運動広場への小中一貫教育校設置を希望するというのを当検討会議の結論として、広島市に伝えたいと思うがどうか。意見等があれば発言をお願いしたい。

○ 構成員

やはり、湯来体育館のところに設置することが一番よいと思う。湯の山の運動広場はレッドゾーンにかかっており、そこに擁壁を設置したとしても危険であることに変わりはないと思う。子どもたちをそのようなところに通わせたいとは思わない。

○ 構成員

小中一貫教育校の設置場所が湯来南運動広場に決まろうとする中で、こみ上げる思いがある。自分自身、湯来東小学校・湯来中学校を卒業しており、年を経るごとに、水内地区、上水内地区が寂しくなっていくという状況でこの会議に参加してきた。そうした中で、この会議が、湯来地域に学校を残していくためのものであることは理解しているが、水内地区から学校がなくなるという瞬間に立ち会うことに対する責任の重さを感じている。

本日配付された「参考資料」にあるように、砂谷地区の方から、水内地区、上水内地区に対して、非常に配慮のある意見を出していただき、心に沁みている。湯来南運動広場に設置することになったとしても、各地区が手を取り合って、よい学校を作っていくという方向に進めていく必要があると考えている。新しく学校ができる地区、学校がなくなってしまう地区が思いを一つにして、各地区の地域資源を生かしながら、湯来地域全体の活性化に向けて知恵を出し合っていきたい。

○ 構成員

設置場所については、今回で一段落ということになるのだと思うが、その上で意見を言わせてほしい。

子どもの数が減少している中で、湯来地域に学校を残すことを目的にこの会議が立ち上げられたと理解している。一方で、ここ数年で湯来東小学校の評判が広がり、子どもを通わせたい

と湯来東小学校区に住宅を探している方もいる。そうした需要を後押しするような取組よりも、学校統合に関する検討を進めてこられたことを個人的には残念に思っており、湯来東小学校の保護者へのアンケートにおいても同じような意見が出ている。

これまでの会議内容を踏まえると、小中一貫教育校の設置場所としては、湯来南運動広場・湯来体育館のところを望む声が多いことは理解している。仮に、その場所に設置することが決定した場合、前回会議や今回会議に向けた意見の中でも挙げていたが、湯来東小学校としては、現時点で提示いただいている情報だけでは、新設された時点で小中一貫教育校に通うという判断ができない。スクールバスの導入に関しても、市からは色よい回答をいただいていると思うが、そこが確実にならない限り、自分自身もそうだが、保護者たちは新設校に子どもを通わせることは難しいと考えている。今後、小中一貫教育校設置に関する具体的な検討が進み、湯来東小学校区から砂谷地区まで安心して子どもたちを通わせることができると判断できるまで、時間の猶予をいただけるのであれば、湯来体育館のところ設置すること自体はやむなしだと考えている。

● 座長

湯来東小学校が統合するタイミングについて、柔軟な対応をお願いしたいという意見をいただいたが、市としてはどうか。

※ 教育委員会教育企画課

小中一貫教育校を設置するタイミングで統合するが、その統合を判断する時期について猶予がほしいという理解でよいのか。

○ 構成員

湯来地域にある既存の小・中学校の校舎の耐用年数が残り 20 年程度であることから、新たに学校を建設する必要があるということが、この会議での協議を進める上で最も重要なポイントだと認識している。その設置場所がおそらく湯来南運動広場・湯来体育館のところまで本日決定する。

湯来東小学校としては、通学に伴う負担の問題もあるが、現在の湯来東小学校が素敵な学校であり、小中一貫教育校が同様に魅力ある学校になるか不透明であることから、開校までの5～6年間で判断は変わるかもしれないが、現時点では、開校のタイミングで小中一貫教育校に統合してそこに通うという判断ができない。現在、湯来東小学校では、地域の方にも協力いただくことで魅力的な学校生活を送れている。小中一貫教育校ではそうした取組が可能かどうか現時点では分からない。そうしたカリキュラム上の課題もあるため、開校までの期間で判断できない場合、一定数の児童がいる前提で、校舎の耐用年数が許すのであれば、2年か3年か5年かは分からないが、湯来東小学校の場所で存続し、新設校と交流しながら、湯来東小学校らしい学校生活を続ける分校のような取扱いを認めてほしい。こうした取扱いを認めてもらうためには、教育委員会の決定が必要なのか。あるいは、他の構成団体に認めていただければよいのだろうか。

● 座長

湯来東小学校としては、一時的に分校のような取扱いを望んでいるという認識でよいのか。

○ 構成員

小中一貫教育校の設置場所が湯来南運動広場・湯来体育館のところになるのであれば、そう

した取扱いを望んでいる。

● 座長

統合しないのではなく、最終的には小中一貫教育校に合流することを前提とするが、統合するタイミングを相談したいという話だと理解してよいか。

○ 構成員

そのとおりである。小中一貫教育校が開校するまでの間に具体的な検討が進んでいく中で、統合してよいと保護者たちが判断できるか否かは、現時点では分からないため、それまでは分校のような取扱いを認めてほしいという話である。そうした取扱いを認めてもらった場合であっても、小中一貫教育校への合流を希望するタイミングを急に申し出ても市としても対応が難しい部分があると思うため、ある程度先の見通しを立てて考える必要があることは、保護者としても認識している。

※ 教育委員会教育企画課

以前の会議で同様の話をいただいた際に、提言書の内容との整合性について話をさせていただいた。その際は、湯来地域にある小・中学校を一つの小中一貫教育校に統合するという内容の提言書に対して、その枠組みから湯来東小学校だけ外れるという主旨だと認識していたため、提言内容の整理が必要であるという話をさせていただいた。本日の話だと、統合するタイミングについては柔軟に検討するものの、必ず統合することは変更ないということによいか。

○ 構成員

そのとおりである。今後、子どもの数が大幅に増加することは想定できないことや、校舎の耐用年数が残り20年程度であることは保護者も理解しているので、分校としてずっと残し続けてほしいという要望ではなく、小中一貫教育校を砂谷地区に設置することを望む意見が多いのであれば、そのことについては反対しないが、例えば10年くらい、少し長く湯来東小学校を残してほしいというものである。

※ 教育委員会教育企画課

統合しないのではなく、最終的には小中一貫教育校に合流することを前提とするが、統合する時期を柔軟に調整したいという話であれば、直ちに提言書の内容と異なるというわけではないので、選択肢の一つとしてあり得ると考える。ただし、設置場所の決定後、これまで以上に具体的な検討に入っていく中で、湯来東小学校が統合する時期の見通しが立たない状況であれば、現実的には、検討を進めていく上で支障が生じることが想定される。開校と同時ではないとしても、例えば、何年以内には統合するといった、見通しを持てるための条件などを整理する必要があると考えている。

● 座長

統合時期の見通しを立てた上で、柔軟な対応を検討していくという回答だと理解するが、それでいかがか。

○ 構成員

市がそうした見通しを持ちたいという事情は理解できる。統合のタイミングを柔軟に検討することを認めていただくに当たっては、統合時期等の条件の話もすることになると想定してい

る。

● 座長

整理すると、統合時期について柔軟な対応を検討することは可能であるという回答だと認識している。

そうした中で、来年4月に湯来東小学校と統合する湯来西小学校区の子どもたちについては、仮に、小中一貫教育校の開校時に湯来東小学校が統合しない場合は、小中一貫教育校の方に通うことになるかと認識しているが、問題ないか。

※ 教育委員会教育企画課

湯来西小学校の先行統合は、湯来地域の全ての小・中学校を1つに統合し、小中一貫教育校を設置するという枠組みの中で、先駆けて統合を行うものであり、同校の保護者の皆様としても、小中一貫教育校が設置された際には、一貫校に通学することを希望されているものと認識している。そのため、仮に、湯来東小学校が小中一貫教育校の開校時に統合しない場合は、現在の湯来西小学校区在住の子どもたちが小中一貫教育校に通うための通学手段を確保するなど、不利益が生じないように責任を持って対応しなければならないと考えている。

● 座長

他に意見等がないようであれば、先ほども述べたとおり、小中一貫教育校の設置場所としては湯来南庭球場・運動広場・湯来体育館のところを希望するという意見が多いようだが、このことを設置検討会議の結論として、広島市に正式に伝えるということによりだろうか。

【発言等なし】

● 座長

それでは、湯来南庭球場・運動広場・湯来体育館のところに小中一貫教育校の設置を希望するという当設置検討会議の結論を広島市にお伝えする。

湯来東小学校の統合時期を柔軟に検討することについては、この場で結論を出すものではないため、別途、湯来東小学校の関係者と行政で協議を進めるようお願いする。

○ 構成員

少し時間はかかるかもしれないが、よろしくお願ひしたい。

● 座長

それでは、ただいまの当設置検討会議からの結論を受けて、市の方から何かあるだろうか。

※ 教育委員会教育企画課

構成員の皆様には、御多忙な中、何度もお集まりいただき、各団体への連絡や意見の集約等において、しっかりと御対応いただいたこと、いくつもの難しい判断を迫られる中で、建設的な議論を重ねていただいたことに感謝申し上げます。

5つの小・中学校を1つの小中一貫教育校にするという前例のない規模の取組であり、教育委員会のみならず広島市としても重要な事業に関わらせていただいていることに身の引き締まる思いである。本日、設置場所について結論を出していただいたが、引き続き、地域の皆様の思いをしっかりと受け止めて、スピード感を持って取り組んでいきたい。

● 座長

本日、設置場所についての結論を出したが、今後は安全対策や通学手段、廃校後の跡地活用、あるいは新設校の施設整備や教育内容など、様々なことについて地域全体で協議していく必要がある。ここにいる皆様には、これからも引き続きよろしくをお願いしたい。

本日も意見があったとおり、湯来南運動広場の場所に小中一貫教育校が設置されれば、水内地区、上水内地区から学校がなくなることになる。当設置検討会議には、広島市の地域活性推進課にも参加してもらっているが、今後は、水内地区や上水内地区のまちづくりや跡地活用についても考えていく必要があるので、是非協力をお願いしたい。

(以上)